

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 8月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	4071601993
法人名	社会福祉法人 三井福祉会
事業所名	グループホーム あいの里
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市山川安居野3丁目3番18号 (電話) 0942-41-0003
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年6月24日

【情報提供票より】(19年05月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	11人, 非常勤 3人, 常勤換算 13.8人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋造スレート葺造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費	有り
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2	9名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.8歳	最低	71歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中内科医院・神代病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

素敵な歌舞伎門と整備された庭園の中央に遊歩道があり、思わずホームへと脚を運びたくなる。玄関を入ると開放的なリビングがあり、居室の窓を開ければ田んぼが広がり目線の先には筑後川の堤防が眺められ、四季折々の風景を垣間見ることができる。職員が、将来入居したい施設を目指し、法人合同での職員研修に力を入れ常に勉強会が開催されている。ケア会議においても、入居者の心身の状態・行事・ケアプラン・問題点等管理者・職員が一丸となって話し合い、日々のケアの向上に活かしている。本年度より、認知症の改善に公文式学習療法を取り入れるなど、全職員が入居者のよりよいケアに取り組んでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価における改善点については、記録物の簡潔化と運営推進会議を2ヶ月に1回開き地域に開かれたホームとなるよう取り組みがされている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に関しては、各ユニットの管理者が記入し職員に追加・修正等がないかを確認してもらっている。自己評価は、項目一つひとつを職員全員で取り組むことで職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能となる。全職員で取り組むことによりサービスの質の向上に取り組んでいただきたい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	外部評価の報告・行事の計画・報告等に関して、家族代表・地域の代表・市役所・地域包括支援センターの職員に参加していただき意見交換を行っている。次回より区長さんにも参加していただき、地域の行事等を把握し参加していきたい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	利用契約書に苦情や相談窓口を明記し入居時に説明・同意が得られている。玄関にご意見箱を設置しているが、直接職員に話される事が多く、管理者へ報告され会議等で話し合いその都度速やかな対応ができ、家族への報告も明確にできている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設のデイサービスと合同で夏祭り・文化祭を開催し、夏祭りには地域の太鼓の会に来て頂き、文化祭には入居者と一緒に行った小物を販売している。近くのお宮まで毎日お参りにいく時にゴミ拾い活動を行っているが、地域の行事等へ入居者と共に参加するまでには至っていない。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流を大切にしながら家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活が送れるようスタッフも共により寄り添うようなケアを目指します」と言う理念を玄関・トイレに掲示し認知症になっても地域の中で安心して暮らせるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「その人らしい生活・地域とのかかわり・寄り添うケア」を毎日のミーティングや会議の中で話し合い日々実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設のデイサービスと合同で夏祭り・文化祭を開催し、夏祭りには地域の太鼓の会に来て頂き、文化祭には入居者と一緒で作った小物を販売している。近くのお宮まで毎日お参りにいく時にゴミ拾い活動を行っている。	○	地域の行事に地域の一員として入居者と共に参加出来るよう取り組んでいただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価における改善点については、記録物の簡潔化と運営推進会議を2ヶ月に1回開き地域に開かれたホームとなるよう取り組みがされている。今回の自己評価に関しては、各ユニットの管理者が記入し職員に追加・修正等がないかを確認してもらっている。	○	自己評価は、項目一つひとつを職員全員で取り組むことで職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能となる。全職員で取り組むことによりサービスの質の向上に取り組んでいただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・地域の代表・市役所・地域包括支援センターの職員に参加していただき、外部評価の報告・行事の計画・報告等について意見交換を行っている。次回より区長さんにも参加していただき、地域の行事等を把握し参加していきたい。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の議事録を提出しホームの現状を伝えている。市主催の研修等に参加し意見交換等を行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人合同の勉強会が年に1回開催され必要時には対応できる体制が出来ている。	○	制度を活用されるだけでなくパンフレットをホームに準備する等して、一般的に知られていない制度の情報提供・説明・アドバイスを行ってほしい。
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や電話があった時に随時報告を行っている。金銭面に関しては個々に出納帳を作成し、説明・サインをもらっている。年4回の「ほほえみ便り」を発行し暮らしぶりを知らせている。また、入居間もない方には、次の日に状況報告するなどしてきめ細やかな報告が来ている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約書に苦情や相談窓口を明記し入居時に説明・同意が得られている。玄関にご意見箱を設置しているが、直接職員に話される事が多く、管理者へ報告され会議等で話し合いその都度速やかに対応されている。職員の名前が解らないとのご意見をいただいたので職員の名前と写真を玄関に掲示している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の他事業所への移動が多く、入居者の不安を最小限にとどめる為に移動の当日まで発表せず最後の日に挨拶をするようにしている。管理者も、移動は最小限にとどめるよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては本部で行われているが性別や年齢等を問わずに採用している。パソコンの得意な職員に新聞作りを、料理が得意な職員にはお菓子作りなど職員が持っている能力や特技を発揮できるよう配慮をしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	身体拘束・虐待等の勉強会を行い、入居者の人権を尊重し対応や言葉使いなど常に気をつけている。名前でお呼びする入居者は、本人・家族の了解を得ている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修計画があり実施されている。法人内のグループホームが3箇所あり、合同での勉強会が年6回行われている。	○	研修活動には積極的であるが研修報告書等がない。研修報告書を作成し、全職員への周知徹底をしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会等の研修に参加し同業者との交流を図っている。本年度より久留米市事業者協議会にGH部会が創設され加入しているので、同業者との交流や連携を深めサービスの向上に努めていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームを理解していただく為、パンフレットやご利用案内においてホームの理念・運営方針・日課等の説明をし、入居に不安をいただいている方には、「体験入所」をしていただき十分検討した上で入居していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物のつけ方、花や野菜の育て方、郷土料理の作り方などアドバイスを頂いている。長年生きてこられた人生の先輩方がいるので自分たちは今ここにいられるのだと常に感謝の気持ちで働かせてもらっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしや会話の中から、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思表示の困難な方には、家族や関係者から情報を得るとともに、生活歴や日常の暮らしの中から思いや意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等より得た思いや意向を基に、全職員でアセスメントやモニタリング、カンファレンスを行い、入居者主体の暮らしを反映した介護計画の作成に取り組んでいる。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の支援経過記録による状態の変化、および本人や家族等の要望に応じて関係者と話し合い、介護計画の期間内であっても現状に即した検討見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々要望に応じて体験入居、通院、いきつけの理美容院、自宅への送迎、入院時の見舞い、家族の宿泊受け入れ等、臨機応変かつ柔軟な支援に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の要望に応じて、それぞれのかかりつけ医の受診を支援している。訪問診療にきてもらうケースもあり、複数の協力医療機関と連携を密に図り、適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における医療処置の対応についての方針や支援の具体的な内容について、本人にとって一番よいと思われる方法を家族、医師、看護師を交えてよく話し合って決めるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は言葉かけや個人情報の取り扱いに十分に配慮している。利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応の徹底を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングルームでおしゃべりを楽しんだり、自室で過ごしたり、起床や食事の所要時間、入浴、散歩等、入居者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら本人のペースで生活できるよう柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食の副食のみ業者に委託し、施設の厨房で調理されているが、朝食と主食、汁物、おやつは入居者、職員とで相談しながら作っている。盛り付けから片付けに至るまで入居者同士それぞれの得意分野で、自然に役割分担ができていく。食事中はテレビを消して、入居者と職員が同じテーブルで同じ物を食べ、会話しながら楽しく食事をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に添って毎日、何時でも入浴できる体制であり、順番等に配慮しながら一人ひとりに合った入浴の支援をしている。入浴を拒まれる方には言葉かけを工夫し、入浴の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や趣味、経験を生かし、食事作りや保存食作り、障子の張りかた、手芸、園芸等、得意分野で力を発揮してもらえよう、支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や希望に応じて、心身の活性につながるよう日常的に馴染みの場所へ散歩に出かけている。買物やドライブ等移動に配慮しながら外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけなくてすむように感知器を設置し、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。近隣の民生委員に協力を求め、必要時には見守りや声かけ、ホームへの連絡をしてもらえるような関係を築いている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	対策マニュアル、組織図を作成し、事業所だけで年2回さまざまな発生時間を想定して避難誘導訓練を行っている。避難場所の確保、避難経路の確認、食料や飲料水も備蓄している。区長及び地域の住民にも協力を要請している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事摂取量を記録している。特に水分摂取量に配慮し、全職員が情報を共有している。毎月給食会議を開催し栄養士の専門的アドバイスももらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるようにソファや畳を配置している。入居者が主体となって作るケーキを焼く香りやホーム中庭に夏野菜を栽培する等、生活感、季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は思いのこもった家族の写真や趣味の物品を持ち込み、馴染みの家具や生活用品を配置し、居心地よく安心して過ごせる場所となるように配慮されている。</p>		